

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2004年2月25日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信8号



2004年2月7日 「雪に埋まった藤原集落」 富田良子

- 今号の目次 -

- 臨時総会兼新年会の報告・・・・・・・・・・・・・1
- 第5回フィールド・ステディの報告
- 民宿「関ヶ原」ご一同さんからの便り・・・2
- 初参加霜辻さんのご感想・・・・・・・・・・・・・2
- 水上町役場・小野さんのご感想・・・・・・・・・・・・・3
- 小学4年生岡真妃ちゃんのレポート・・・・・・・・・・・・・3
- 斉藤康子さんの雪原散歩とヘルシメニューレポート・・・4
- 湯本さんの仮小屋雪下ろし奮闘記・・・・・・・・・・・・・5
- 出水さんの「厳冬の雪降ろしや萱原雪原は
 厳しい体力が必要と再認識」・・・・・・・・・・・・・5
- 海老沢さんの雪掘り体験～スノーライフ
 は楽じゃない～・・・・・・・・・・・・・6
- 編集後記
- レポートにあった事、なかった事 - ・・・・・・・・・7

森林塾青水「臨時総会 & 新年会」のご報告

新玉の年を迎えての1月14日(水)、冷たい風の吹き交う中、UFJ銀行四谷クラブで、当塾の臨時総会が開かれた。出席総数27名。都内はもちろん、藤原町からも多忙の合間を縫って広川、木村両氏の参加あり。

清水塾長の冒頭挨拶につづき、「03年度の振り返りと今後の課題(アンケート結果を踏まえつつ)」および「04年度の活動方針(案)」が詳細に報告された。その中で、04年度は当塾発足4年目・現代版「入会慣行」を考える会の3年目であり、施策の具体化を着実に進めるべき年として、ホップ・ステップ・ジャンプのステップ段階に位置付けられるとした。次いで、現代版「入会慣行」の定義と権利・義務の成文案が発表され、会員の衆知を集めて完成させたい旨の発言が、塾長よりなされた。

また、各幹事からは講座「森林コモンズ村・ふじわら」の第一期生募集概要(海老沢学監)、NPO法人化についての検討状況と活動助成制度について(浅川幹事)、平成16年1月5日現在の収支報告(林部監事)がなされ、緊張のうちに1時間を終えた。

7時から、簡にして要を得た富田良子さんと温かみのある自在な原剛さんによる、珍しい二人乾杯の儀式を終えて懇親会に入った。常に変わらぬ軽妙洒脱かつ人をそらさぬ清水塾長の主宰により、参加会員の巧まざる近況報告が続くなか、協賛会員の麗澤中学校・藤田先生から、環境学習受け入れへの謝意と当塾・麗澤中の協力への意思を、ユーモアを交えた挨拶に大きな拍手が沸いた。

テーブルごとのあるいはテーブル越しの懇談・友誼も9時をこえてやむなく、高野さんの一本締めで真摯・清雅な臨時総会を終えた。
(川端英雄)



第5回フィールドスタディ報告 森林塾青水「雪下ろし体験&雪原散歩」

日時 2004年2月7日(土)~8日(日) 宿泊地 民宿「関ヶ原」
 目的 冬場の藤原地区の生活・歴史・文化・知恵に触れ体験する

「山びこ」で昼食=「田舎うどん」。これで4人前。
 手打ちうどんにキノコや野菜が具たくさん!!



上ノ原青水の森 フィールドスタディ
 (雪原散歩・足跡ウオッチ等)



巨大かまくらと茅の輪
 町長、地元の皆さんと懇親

地元「気ママ屋」のヤンママからヤン饅等ご馳走!
 地元の小学生とカンジキ歩行



夕食前に、明日に供えて林明男さんによる雪下ろし・雪掘りの要領を聞きました
 地元の林親男・林久・林三郎・林明男さん達と夕食を一緒にし、その後2時間学習会兼意見交換会

2日目雲越家の便所屋根と仮小屋の雪下ろし雪掘り

水紀行館でそば打ちしてから昼食をいただきました



森林塾青水の皆様へ

先日は皆様のご宿泊、ありがとうございました。冬季にスキー以外のお客様の宿泊は、我宿にとっては珍しいことで、新鮮な気持ちになりました。いろいろな話や意見・希望などを聞かせてもらい、自然の大切さ、すばらしさを、お客様からあらためて教えていただいたような感じです。自然に対する真剣な取り組み、そして田舎料理を美味しいと言って食べてくださった皆様、とてもよい方々ばかりでこちらまで心が温まります。本当にありがとうございました。またいつでもおいでくださいませ。お待ちしております。
 民宿「関ヶ原」一同

初参加の感想

この度、富田さまのご紹介で初めて参加しました。何も解らず言ったのですが、水上は以前紅葉の頃の思い出がありましたが、20何年振り?の雪景色には唯々感激でした。「かんじき」を履いての雪原探索、かまくら、茅の輪見学とヤン飲茶、夜は民宿「関ヶ原」にて林明男氏の雪下ろし講座。新年交流会、古老ヒアリングなど、盛り沢山のスケジュールでちょっとびっくりしましたが、いろいろと初体験で有意義な一日でした。

翌日は、そば打ちの体験も出来、おそばもおいしかった。それに民宿の食事も大変おいしく、いろいろ配慮していただいて有り難かった。唯、目的もなく遊んだりするのではなく、地元の方々との交流を通して、会のモットーであるフィールドで活動しながら、皆様にご迷惑をおかけしない様にして楽しく自分自身も成長していきたいと思っています。
 (霜辻愛子)

森林塾青水「雪掘り体験&雪原散歩」に参加して・・・

私は、生まれも育ちも水上で、学生るとき4年間北海道旭川市に住んでいた以外は三十二年間水上に住んでいます。幼い頃は、「田舎で雪も多くて住みにくい場所」と思っていました。学校を卒業し、北海道から水上へ戻ってきた頃から、自然の美しさを感じるようになりました。ただ、生まれも育ちも水上のため、客観的な目で見ることはできませんので、観光地として求められるもの、今現在欠けているものがよくわかりません。

また、今回のような事がないと地元の飲食店や宿泊施設を利用する事がないので、昼食の「やまびこ」の「田舎うどん」やかまくらでいただいた「おでん」「ヤーコンまんじゅう」、民宿「関ヶ原」の青水オリジナル夕食など身近にこんなに美味しい物があつた事に驚きました。更に地元の食材のみを利用した料理でこれだけ美味しくできる事にも感動しました。私も以前から海産物がメインとなる地元宿泊業の料理に疑問を感じていましたが、果たして地元の食材のみで料理に華やかさや魅力をもたせられるのか不安がありました。しかし、今回の特別料理をいただいて、今後自信を持って地元の材料のみでも十分お客様を満足させられる料理ができることを他の宿泊業の方々にも勧められます。

もう一つ不安があつた事がありました。これも今回解消されました。私も若くありませんので・・・私が良いと思っても、二十代の若者にこの料理が受け入れられるか・・・という不安です。当日別の宿泊客に若い男女がいたので「関ヶ原」の大竹さんにその二人がこの料理を喜んでいたので聞いてみました。その二人は「ぼた」などを郷土料理と聞くと大変喜んで食べていたそうです。

初日の「フィールドスタディ」では、かんじきの履き方を初めて知りましたし、雪原になった上ノ原の美しさに感動しました。地元では考えもしない場所に水上の美しい自然が隠れている事を知りました。

二日目には、そば打ち体験のお手伝いをさせていただきましたが、私もそば打ちは初めてでしたので、自分自身も楽しませていただきました。自分で打つたという事もあります。作りたてのそばがこんなに美味しいとは知りませんでした。残念だったのは、近代的な建物で行ったことです。例えば、使用されていない旧家を利用し「そば打ち道場」的な場所を用意できれば「趣」もありより楽しめたと思います。ただし、構想は既にあるのですが、実現するのが難しいのが現状です。

二日間という短い期間でしたが今回もたくさんの貴重な情報をいただき、水上の魅力を発見することができました。今後、「森林塾」の事業が本格的に始まりますが、皆さんのお力に甘えるだけでなく、積極的に参加させていただき、皆さんの知識を少しでも身につけ、仕事に反映させ、水上町を皆さんが心から楽しめるような町にしていきたいと思えます。

水上町建設農林課農林係 小野 丞

雪 国 体 験

私は「かんじき」で雪の上を歩いたのは初めてでした。「かんじき」というものすら知りませんでした。雪の上を歩くと雪に少しもれてしまいました。時々、縄がほどけてしまったけれど、なかなか面白かったです。藤原名物の「ふっちゃん」はすごく大きくてびっくりしました。あんなに大きなかまくらを見たのは初めてです。かまくらは、本などでしか見たことがなかったので、この旅行がすごく楽しみでした。かまくらの中で食べた舞茸クッキーが私は好きです。舞茸は大好きで、家の晩ご飯の料理にも入っている事が多いです。それからヤーコンまんじゅう、ヤーコン茶もおいしかったです。あんまりおいしくて食べ過ぎてしまい、民宿の晩ご飯はとても豪華でおいしかったけれど、少し残してしまいました。民宿では布団で寝ました。家ではベットで寝ているので、布団でねるのは久しぶりでうれしかったです。

雪下ろし、これはたくさん汗をかいて、大変だったけれど、東京では絶対できません。林部さんのそりも面白かったです。最後につくった手打ちそばはすごくおいしかったです。そばは私の好物の一つです。そばを練るのに力が入りました。のばすのはむずかしいです。切るとき、太さがちがってちょっと変に出来上がりましたが自分ではうまく出来たと思います。お土産のそばは家族で食べました。

とても楽しい体験が出来ました。また行きたいなあ。

富田さん、清水さん、林部さん、森林塾青水の皆さまありがとうございました。雪原でむかえてくれたお友達、ありがとう。

ヤーコン茶は「葉っぱ」、ヤーコンは「根のおいも」でした。

岡 真妃（小学4年生・斉藤康子さんのお孫さん）

「雪原散歩」と宿舎「関ヶ原」の森林塾ヘルシーメニュー

晴天に恵まれた雪原の二日間でした。緑の山々や茅原は、360度厚く白いマントをまとい、変身して私たちを迎えてくれました。2メートル位ある積雪へ踏み込む（雪原散歩）のは、カンジキを履いているとは言え、私には少し勇気がいる初めての体験でした。なんとか中腹あたりまで歩いてから、振り返って見ると茅刈りをした頃の風景が思い出されて感動でした。

今日の宿舎「関ヶ原」への道路わき広場に、かまくら「藤原のフちゃん」がどーんと構えて待っていました。室の中は以外に暖かくて、7～8名くらいは入れる広さでしょうか。「水神様」が奉られていて、ろうそくの明かりが揺れていました。昔の子供たちはきっと、ワクワクしながら室で小正月を楽しんだのでしょうか。室では、地元の若いお母さん達手作りの熱いヤーコン茶と、まいたけクッキーで暖まり、一息つくことが出来ました。かまくらの入口では、湯気を立ちのぼらせてヤーコン入り肉饅頭、ごまあん饅頭、みそ饅頭が蒸し上がっている様で、早速いただいてみると、どれも美味しい！ みんなはうれしくなってお土産に買ったりしてほとんど消化してしまっただようです。ちょっと食べ過ぎたかなあ・・・。（今日の宿舎「関ヶ原」の夕食のことが頭をよぎる。）

民宿「関ヶ原」さんの夕食では、私たちのわがままな要望（＝森林塾メニュー）を考慮して下さり、とっても美味しくヘルシーな献立でした。



かんじき雪原散歩



夕食メニュー。12皿も！



地元藤原小学生と記念撮影

2月7日夕食メニュー

- けんちん
 - 根菜類七品入り
 - 白身魚の辛味ソースかけ
 - 白身鱈の唐揚げに、にんにく醤油、酒、酢、砂糖、ごま油のドレッシングかけ
 - 豆乳湯葉刺身（わさび）
 - 魚の刺身より美味しい
 - わらびのわさび醤油和え
 - 山菜はいつもうれしい食品です
 - ぜんまいとにんじんの煮物
 - 地元では田植えの後に必ず食べられている煮物
 - こんにゃく・里芋の柚子みそ
 - さっぱりとしていて絶品
 - 白身魚のおろしかけ
 - とてもヘルシーな魚料理
 - ぼた
 - ご飯をついて丸め、くるみみそをつけて焼いたもの
 - そばがき
 - 白菜の漬け物
 - 自家製の漬け物で美味
 - ・かけうどん
 - ・天ぷら 舞茸、なす、さつまいも、大葉、きす
- 山菜や根菜類は絶対おすすめ品です。

2月8日朝食メニュー

- きびごはん
 - 米10対きび1の割合で炊く。子供の頃が思い出され、美味しかった。
 - なめこ汁
 - 納豆、のり
 - ごみのごま和え
 - 冷凍保存したもの。色よくて美味しい。
 - 生野菜
 - わらび煮付け
 - 卵焼き
 - 漬け物
 - ・焼き塩さけ
- やはり水上でとれた地ものが一番でした。
印はおすすめの品々

（斉藤康子）

仮小屋（惣一郎小屋）雪下ろし奮戦記

2月8日午前10時、カンジキを装着し、惣一郎さんを先頭に、浅川さん、出水さんそして私の4人で出発した。昨日歩いた踏み跡には10cmほど新雪が積もっている。それほど歩きにくいとも思わないが、各々スコップなりスノッパを担いでいるせいか、なかなか歩行速度が上がらない。ただ惣一郎さんは快調に飛ばしており、みるみる内に間隔が開いて行く。頂上の平から左に折れ、小屋を目がけて歩き出す。まだだれも歩いていない雪原を惣一郎さんの足跡をなぞりながら進むが、カンジキをはいているのに膝がすっぽり埋まるほどの深さだ。一面真っ白な雪の原っぱに、一筋の動物のあしあとを見つける。「きつねだ!」惣一郎さんの声。ようやく小屋に到着する。

小屋はすっぽりと雪に埋まってしまった。軒下の50cm程の透き間から中をのぞいてみる。6本の垂木が折れており、中にはまっふたつに千切られているのもある。中心の太い柱も重みで撓んでしまっている。まざまざと雪の重さのすごさをみせつけられ、驚くばかりだ。茅の輪はてっぺんが少し見えるだけですっぽり埋もれているが大丈夫のようだ。茅の輪の埋まり具合からして、積雪は2mを超していそう。いよいよ雪下ろしの開始だ。惣一郎さん指導で、まず小屋の両側を踏み固めて雪の捨て場を確保する。スノッパを雪の中に差し込んで端の方から片付けていく。残りの2人は屋根の中央からスコップで雪を掘って山側に放り投げていく。雪をスコップで立方体に削って投げるのがコツだが、雪が硬くなるにつれて重くなり、しんどくなる。木村さんと池田さんの後発隊が到着し、作業を交替する。雪の下層が硬くなり、スコップが刺さらなくなったので、スノッパに乗せて除雪する。11時30分で作業を終了する。屋根の除雪部分から判断して、ようやく3分の1ほど片付けられた。わずかばかりの時間の雪下ろし体験ではあったが、雪国に暮らす人々の苦労が身に染みて分かった。

利根川水源流域は水資源を下流域に供給しているが、年間流出量のうち約51%が融雪流出量(注)といわれる。雪はやっかいものではなく、私たちにとって大切な命の水なのだ。そして積雪地帯に暮らす人達の犠牲的精神のうえに水資源が確保されていることを忘れてはならない。

(注)融雪流出量とは、融雪の最盛期にあたる4月と5月の全流出量

(湯本信康)



2日目は快晴、仮小屋からは谷川岳～朝日連山までが見渡せた

厳冬の雪降ろしや萱原雪原は厳しい体力が必要と再認識

以前から楽しみにしていた冬のフィールドサーベイに参加して来ました。2月7日(土)に雪の萱原を確認に行き、生まれて初めての「カンジキ」を履いて歩いて見ましたが、以外に歩き安いと思ったのはほんのつかの間で、新雪を踏んでやっと冬の厳しさを思い知らされました。なんせカンジキでも30～40cmは沈んでしまい、ほんの50mを歩くのにひと汗かいてしまうと云うすごい体験になりました。しかし、そこで見たのは我々の大事な作業小屋が2～3mの雪に埋もれた光景でした。これでは春が来る前に潰れてしまうのでは、と云う事になり次の日の仙太郎館の雪降ろしもそこそこに、昼までの作業に6人で萱原へ向かいましたが、昨日のカンジキ体験が役に立ち、作業小屋までは何とかたどり着く事が出来ました。まずは作業小屋のサイドから雪を払いながらふもとに向かって雪を掻いて行きますが、地元の惣一郎さんから「まずは景色を見てごらん!」と言われ、ふと見渡すと谷川岳がくっきりと目に入り、真っ青な空に雪景色がまるでパノラマのように広がっていました。その後も作業の合間に汗をぬぐいながら周りの様子を説明する惣一郎さんは、常に落ち着いた様子で我々に大自然の中にいる事を気付かせてくれました。結局、作業小屋の雪降ろしは上部から2mくらいを払ったものの、全体としては1/3ほどしか払う事が出来ず、あとは次の機会として、2～3回雪が降れば多分、柱が折れてしまうのは覚悟での下山となりましたが、今回の体験で見た景色の素晴らしさと、惣一郎さんの言葉はきっと忘れる事は無いと思いました。

(出水周二)

雪掘り体験～スノーライフは楽じゃない～

雪掘り前の雲越家住宅

私たちは、役場の木村さんからラッカー Sprey を塗ったスコップを手渡された。こうしないと雪がスコップにくっついて大変なんだそうだ。雪掘り体験の現場、「重要民俗文化財」は、すっばり雪に埋もれていて、まるで「埋蔵文化財」みたいだった。

トイレ小屋の雪下ろし

素人のわたしたちに用意されていたのは、雲越家住宅のとなりに建っている「トイレ小屋」だった。小屋の屋根の雪を下ろし、下に落ちた雪を「掘る」作業だ。林明男さんや林親男さんの指導で、ハシゴをかけて屋根に登り、棟の部分に積もっていた雪を、おそろおそろ下へ下ろした。トタン屋根は一度に全部雪を落としてしまうと足下が滑るので、けっこう気の抜けない作業だった。

トイレ小屋の雪掘り

棟の雪を落とし終え、いよいよ「雪掘り」作業。屋根の「ひさし」が、下にたまった雪とつながっているのを切り離さなくてはならない。私たちは、家を「掘り出す」気持ちで雪を掘り、ひさしの「雪切り」をやった。1時間半くらいで何とか作業を完了。

雲越家住宅の雪掘りを手伝う

私たちは、雲越家の雪掘りも手伝うことになった。入り口のある「母屋側」の雪掘りは終わっていたが、道路側の屋根には雪が残っていた。

林明男さんが「茅葺き」屋根に登り、手際よく雪を落としていく。屋根にたまった雪は全部落としてしまうのではなく、固く凍った一番下の層は残しておく。これを落としてしまうと、カヤがずり落ちて屋根が傷んでしまうのだそうだ。

私たちは、ひさしを切る作業を手伝った。「ヨイショ、ヨイショ」。頑張っって雪を掘った。役場の中村さんが、「母が用意してくれた」といって、コーヒーとドクダミ茶、そしてお菓子の差し入れをしてくれた。すみません。ありがとう。

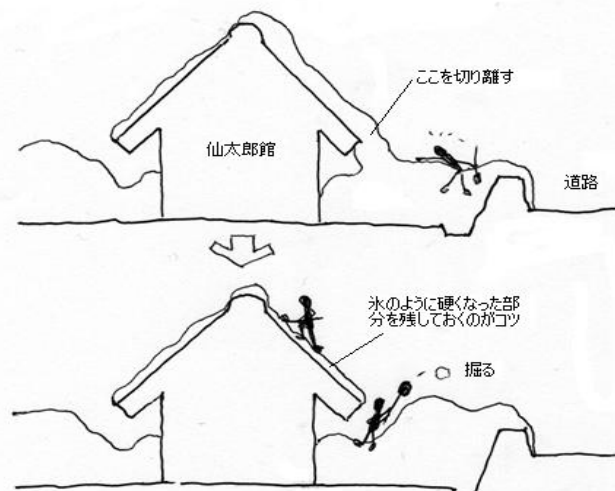
雪国のスノーライフはたいへんだ。ちっともスローじゃない。

でも雲越家の向こう遠くに見える朝日岳は格別美しかった。

(海老沢秀夫)



国指定重要有形民俗文化財「雲越家住宅」を掘る





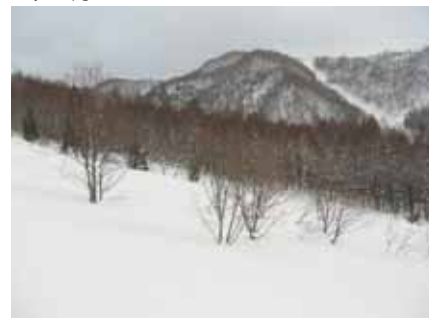
雪の重みで折れた仮小屋の垂木



雪に埋もれた茅の輪



雪原



編集後記 - レポートにあった事、なかった事 -

盛り沢山メニューの臨時総会に続く新年会。最後は、原剛尊師をして「さながら梁山泊のごとし」と言わしめた大団円。

会場のUFJ銀行厚生施設をお手配いただいた林部監事、そして、上等ワインの差し入れをいただいた木もく倶楽部の上田代表、お陰様で楽しく1年のスタートがきれました。ありがとうございました。2頁「山びこ」食堂の主はサッチャンこと内山サツ子さん。昭和5年生まれの74歳ながら、今でもご自分で足こね・手打ちの名物うどんの作り手。地元育ちの色白美人です!!

4頁「関ヶ原」の先代夫人は、ヨシエちゃんこと阿部芳枝さん(昭和16年生まれ63歳)。幼き頃の地元料理を思い出しながら、娘さん(当代夫人)ともども“森林塾青水メニュー”にご協力いただきました。ありがとうございました!

雪中フィールドスタディ。都会っ子の真妃ちゃんも地元藤原小の児童も、初めてカンジキ履いて大はしゃぎ!みんなのために何足ものカンジキを用意してくれた塾頭のお陰で古いも若きも大感動。広川さん保吉さん、ありがとうございました。

“フツちゃん”は今や藤原名物となった(?)巨大かまぐら^{かまぐら}の愛称。休務にもかかわらず足をお運びいただいた腰越町長や、地元の皆さんと「気ママ屋」のヤンママさん達の「ヤーコン茶」会。ヤーコン入りぶた饅、他、数々の心温まるおもてなし。ありがとうございました。

第8号通信、今回は初参加の霜辻さん、真妃ちゃんや初登場の出水さん。そして、地元民宿「関ヶ原」の皆さんや町役場の小野さんからも手記をお寄せいただき、中身の濃い内容になりました。それもこれも事前準備に走り回ってくれた木村主査、広川塾頭、そして休日返上でお手伝いいただいた役場の小野さん、中村さんのお陰です。ありがとうございました。

地元では何故“雪掘り”なのか、レポートでお解りいただけたことと思います。それにしても明男さん惣一郎さん、素人町衆相手にご苦労様でした。又、来年もお手伝い(?)させて下さい!

レポートにはありませんでしたが、我々の宿願=野焼きについても、町制定の「火入れ条例」にのっとり、この度の訪問時に町長宛に「火入れ申請書」を提出、具体化に向けて大いなる前進を見ました。最後に浅川さん毎度まいど、ご多忙中、煩瑣な編集作業ほんとうにご苦労さま!お陰で、通信も早や8号を数えることに。毎号の便りを読むのが楽しみ、との会員諸氏のお声を励みに今後がんばりましょう。

空室^やさがす若き二人や春隣り (青)